

大泉

正答率が下回った問題

校長 中岡 盛一

子供たちが楽しみにしていた運動会に多くの皆様が参加いただきありがとうございます。暑い日や雨の日の体育館など厳しい中で練習を続けてきました。その成果を発揮しどの学年の子供たちも力一杯頑張りました。短距離走、団体競技、団体演技などに大きな拍手をいただき大いに励みになったかと思えます。

さて、四月に実施した六年生の「全国学力調査」結果と、七月に実施した五年生の「学力向上を図るための調査」結果をまとめ、学年にお知らせいたしました。両学年とも各教科の殆どの領域、項目で東京都の平均を上回りました。しかし、二、三下回っているものもあります。六年生の全国学力調査から下回っている問題についてお知らせします。

まず国語です。「ローマ字を読んだり書いたりする。」三問とも下回りました。
 ○りんご (ringo) 正答率四十・〇% 東京都五〇・四%
 ○あさつて (asatte) 正答率三十六・一% 東京都三十九・七%
 ○hyaku (ひゃく) 正答率四十二・六% 東京都四十八・八%
 二学期にローマ字の規則性を押さえローマ字表記を使って仮名五十音と対応し

<発行> 練馬区立大泉小学校

<所在地> 練馬区東大泉 4-25-1

TEL 03-3924-0144
FAX 03-5387-2092



た指導をしていきます。他教科でPCを使った学習と関連付けるよう読んだり書いたりする機会を増やしていきます。

算数では「わられる数とわる数に同じ数をかけても商は変わらない。」というわり算の性質を使って、次のように計算します。□に入る数を書きましよう。
 二・一・一〇・七〇〇(三)

←十をかける← □・七〇〇(三)

正答率六十三・九% 東京都六十六%

かけ算と混同してそれぞれ十倍すると商が百倍すると考え、百分の一にする誤りがありました。わられる数とわる数に同じ数をかけても商は変わらないことを徹底したいと思えます。

もう一問は体育のハードル走の距離の問題です。「スタートから一台目のハードルまでが十二段で、ハードルとハードルの間が五段です。スタートに巻き尺の〇段に合わせると四台目のハードルを置くのは巻き尺の何段のところになりますか。式と答えを書きましよう。」(二十五×三=二十七)

正答率五十四・一% 東京都六十・二%

式は正しく書いたのに、計算の順序のきまりを意識しないで二十五から計算したり、ハードル四台でインターバルが4つと考えたりする間違いがありました。インターバルが3つになることを、図に描かせながら理解させていきます。

10月の行事予定

- 1日(土) 都民の日
- 3日(月) 安全指導・点検
- 4日(火) 宿泊学習事前検診(五)
- 6日(木) 委員会活動
- 8日(土) 軽井沢宿泊学習始(五)
3時間授業
方面別下校
- 10日(月) 体育の日
- 13日(木) 学校公開日
クラブ活動
- 14日(金) 避難訓練(起震車)
保護者会(五)
- 17日(月) どんぐり拾い(1)
- 19日(水) 4時間授業
- 20日(木) 歯科検診(全)
クラブ活動
- 21日(金) 4時間授業(五組除く)
就学時健診
- 27日(木) 特別時程4時間授業
- 28日(金) 移動教室前日検診(5)
いじめ調査
- 31日(月) 軽井沢移動教室始(5)



《10月の生活目標》 「落ち着いて学校生活を 送りましよう」

水泳指導のまとめをしたと思ったら、運動会。五組の宿泊学習に五年生の移動教室を終えると展覧会。気が付いたらもう冬休みがそこまで来ている。一年の中で一番長い二学期ですが、あつという間に過ぎてしまう学期でもあります。

一つ一つの行事に向けての準備に全力をあげてのことが、あわただしく過ぎてしまうのが現実です。そして、そういう時に限って事故が起こる。我が家の遠い記憶をたどってみても、大人の忙しい時に限って子供が熱を出したり、問題を起こしたりといったことのあることが思い出されます。子供の時間の経過は大人ほど速くなく、ゆつくりと流れているからかもしれません。

今月の生活目標は、大人、子供、みんなの目標です。

さて、月に一度「生活指導主任研修会」という研修会に参加させていただき、生活指導に関する講演や種々の情報の交換を行ってくださるのですが、大泉小は、とても落ち着いていることを実感します。そこには、五組、ことばの学級、いずみ学級の存在が無関係ではないように思えます。いろいろな特徴やペースを持つ人を受け入れる心のゆとりは、情緒の安定、人間の幅を広げることにつながります。そういう意味でも運動会の五組と通常学級との共同学習はとても良かったです。心穏やかに過ごすにはとてもよい季節がやってきました。忙しさに追われるのではなく、しっかりと子供達と向かい合い、楽しく充実した学校生活を送らせてあげたいと思っています。(坂上龍介)

三年生の様子

四月、三年生の子供達は初めの頃、学級替えや教室が三階になったなど、その変化にとまどいや驚きを感じている様子でしたが、今ではすっかり慣れた様子です。

三年生から始まった総合的な学習の時間。本校の三年生の学習は何と言っても「小泉牧場」での学習です。小泉勝さんにご協力いただき、様々な貴重な体験をさせていただいています。五月と六月の訪問では、仔牛とふれあい体験をしました。可愛い仔牛がスキンシップで触れあってくるのが嬉しく、その様子をじっくり丁寧に観察していました。訪れる度に大きく成長していることを肌で感じ、目を輝かせ、生き生きとした表情で触れ合いを楽しんでいます。今後は、えさやり体験などを行う予定です。二月の発表会に向けて自分の課題を見つけ、追究していけるようにしていきたいと思えます。

九月の運動会では、見事な団結力を発揮して花笠音頭を踊りきました。テンポや曲調が変わる難しい表現でしたが、頑張つて練習を繰り返した成果が見事に出ていました。運動会は実りある一日となりました。

(立田 康徳)

四年生の様子

よく学び、よく遊び、よく仕事をする。夏休みに、「白地図に都道府県名を漢字で全て書き入れられるようになってくる」という宿題を出しました。もちろん習っていない漢字もあり、やってきて欲しいという強い希望を持ってはいたものの、ある程度出来ればと思っていました。ところが、ふたを開けると九割以上の児童がミス五個以内という結果に、感動しながらの丸付けとなりました。御家庭の協力が大きいと思いますが、覚えるのが大変だった子もいたと思います。やらなくてはいけないことから逃げずにまじめに取り組める素晴らしい学年です。

何も言わずに丸付けを終えたノートを渡せば当たり前前に配るし、鍵を渡せば先回りして開けてみんなを待っている。担任は、出来るだけ仕事を与え、またその際細かい指示を出さないように心がけています。言われたことをやるのではなく、自分の責任で状況を判断し行動できる力を着けて欲しいからです。先述はほんの一例ですが、子供達はその要求に見事に応えてくれています。

それでいて、幼稚なトラブルに今日もため息。毎日を、一生懸命生きている素敵な四年生です。

(坂上 龍介)

五年生の様子

九月に研究授業があり、「大造じいさんとガン」の学習をしました。一人一人が主人公の心情を読み取り、その内容をグループで交流しました。子供たちの読みの深さと意欲が鍵になる難しい学習形態ですが、生き生きと学び合う姿を褒めていただきました。音読を朗読に高めようとすする頼もしい姿も増えました。

他にも、田植えをした後、鳥よけの網を張る実りの時期まで、水田通いをした子供たち。夏期水泳指導に毎日通った子供たち。特二級に合格した子供の努力と周りの友達の大きな声援。放課後も汗びっしょりで南中ソーランを教え合う姿。体力向上や学習・生活の整えなど課題もありませんが、子供たちは確実に学ぶ「楽しさ」を見つけているように感じます。

運動会の係決めでは、希望の係の人数や男女のバランスを考えて進んで譲ったり、調整したりして話し合うことができました。運動会前日準備では、小雨のぱらつく中、学年のみんなが熱心にいす・机運びをして、本番に備えました。

移動教室、連合音楽会など、これからが真価の問われる時期です。成長につながる取り組みにしなければと、身の引き締まる気持ちです。(壺坂 憲司)

いずみ学級から

現在いずみ学級には、本校も含めて13校から39人の子供たちが、週一回決まった曜日に通ってきています。

通級する子供たちは、友達との関係がとりにくかったり、自分の気持ちをうまく表現できなかったりすること、集団生活の中で何らかの課題をもっている子供たちです。毎週の通級では社会性やコミュニケーション能力の向上を目指す活動とともに、体づくり運動や集中・ビジョントレーニングなどに重点を置き、個別学習や少人数での活動を組み合わせて指導を続けています。

その中でいつも感じることは、ご家庭や在籍学級との連携の大切さです。週に一度のいずみ学級への指導だけで、子供の課題がすべて解決するわけはありません。面談や連絡帳でのやりとりを通して、家庭・在籍校・いずみ学級がそれぞれの立場から子供を見つめ、考えを交流し合います。その結果、同じ方向を向いて子供と接することができた時、初めて望ましい変化が生まれます。どの子も、自分本来の力を発揮できるように、私たちはこれからも子供を取り巻く様々な人とのつながりを大切にしていきたいと思えます

(大木 篤)